

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 27 日現在

機関番号：37406

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24617014

研究課題名(和文) 異文化環境における「人生紙芝居」の有効性：コスタリカでの実証研究

研究課題名(英文) A qualitative research using "Kamishibai of life" conducted in Costa Rica

研究代表者

糟谷 知香江 (Kasuya, Chikae)

九州ルーテル学院大学・人文学部・准教授

研究者番号：30337274

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：「人生紙芝居」とは生活史に基づいた手作り紙芝居である。これは、過去の経験を時系列に並べ、視覚的に提示する心理教育的技法である。本研究ではコスタリカにおいて以下の3つの課題に取り組んだ。(1)この技法の実施手順を改良した。(2)心理教育的技法としての有効性を考察した。(3)制作した紙芝居がマイノリティ理解のための教材となりうるか検討した。

研究成果の概要(英文)：“Kamishibai of life” are Japanese illustrated story cards that are based on the true life story of a person. This is a psychoeducational technique that visually presents past experiences chronologically. In this study, I addressed the following three issues in Costa Rica. (1) I standardized the implementation procedure of the technique, (2) I clarified the effectiveness of the kamishibai as psychoeducational technique, and (3) I explored whether a kamishibai I made could be used as teaching material to understand minorities.

研究分野：教育心理学

キーワード：Narrative Life story Costa Rica

1. 研究開始当初の背景

「人生紙芝居」とは、生活史に基づいた手作り紙芝居であり、過去の経験を時系列で、視覚的に振り返る技法である。

本研究のフィールドである中米のコスタリカは 1990 年代以降、ラテンアメリカ地域内からの移民の流入が増加しており、その大半を隣国ニカラグアの出身者が占めている。移民というものは社会不安の原因と映りやすく、偏見のまなざしを受けることが少なくないが、コスタリカ社会においてもニカラグア人に対する偏見の存在が指摘されている。人間が適応的に生きていくためには自己の存在を肯定的にとらえられることが重要であるといわれるが、このことは、困難な環境にあるときにより一層当てはまると考えられる。本研究は、移民をはじめとするマイノリティに対する心理教育的技法の開発を試みる。

紙芝居は、機械を必要とせず、製本の必要がないため作成の比較的容易なメディアであり、近年は日本文化“Kamishibai”として海外でも注目を集めつつある。この技法を日本発の心理教育的技法として理論化する意義は大きいと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下の 3 点にまとめられる。

- (1) 「人生紙芝居」を心理教育的技法と位置づけ、実施手順を改良する。
- (2) 人生紙芝居が生活史の語り手に対してどのような心理教育的効果を持つか、異文化環境で検討する。
- (3) 完成した人生紙芝居をマイノリティへの共感的理解を促すための教材として用い、その効果を検討する。

3. 研究の方法

(1) 実施手順の改良

研究開始時の実施手順は以下のとおりであった。

研究代表者が対象者 (= 語り手) から直接ライフストーリーを聞き取る。
紙芝居を制作する。
完成した紙芝居を、語り手とその家族が同席する場で上演し、語り手に贈呈する。
人生紙芝居について語り手が何を感じたか、感想を確認する。

制作事例を重ねながら、より適切な実施手順となるよう改良した。制作地は、コスタリカ 9 事例、日本国内 1 事例、性別では女性 7 事例、男性 3 事例、年代は 20 ~ 80 歳代であった。

(2) 語り手に対する心理教育的効果の検討

人生紙芝居の実施対象は上述したが、彼らは人生において何らかの困難を経験していた。具体的には、スラムに居住する移民、ストリートチルドレン、難病患者、近親者との死別経験者などである。なお、当初予定していたスラム地区が治安上の理由で調査継続困難となったため、平成 25 年度から調査地を変更した。どちらもコスタリカ首都近郊の地区である。日本での調査は、コスタリカとの比較のために試験的に実施した。

それぞれの対象者に人生紙芝居の実施がどのような効果を与えたか、制作過程について事例研究を行った。

(3) マイノリティ理解のための教材としての有効性

上記(2)で制作した人生紙芝居の作品は対象者に贈呈したが、後に、個人情報などに配慮して変更を加えた改訂版として 6 作品を制作した。このうちのストリートチルドレンに関する紙芝居 1 作品 (図 1) については、コスタリカの 2 つの公立小学校の 1 ~ 6 年生 162 名 (男 74, 女 88) を対象とした上演会を行った。



家が貧しく、空腹から窃盗を働いて故郷にいらなくなり、都市部へ出てストリートチルドレンとなった

図 1 使用した紙芝居図版の例

手続きは、まず教室で紙芝居を上演した。続いて、参加者に以下の 3 項目からなる自由記述式質問紙へ無記名で回答を求めた。なお、1 ~ 3 年生は綴りを学習途上で記入が難しいことを考慮し、口頭で回答させた。このため他の回答から影響を受けている可能性がある。

主人公はどうして路上で暮らしていたのですか？
もしあなたが主人公なら何をしますか？
ストーリーを気に入りましたか？
(はいいいえ)

問 1 と問 2 は項目ごとに KJ 法を用いて回答を分類し、結果を検討した。

4. 研究成果

(1) 実施手順の改良

本研究課題の実施を通して新たに導入した方法は2つある。一つは、インタビューに先立って「ライフライン法」用紙に記入を求め、対象者の人生における主要なライフイベントを予め特定することである。これによって語り手が自己の人生を予め振り返り、出来事を語りやすくなるという利点がみられた。たとえば初対面の対象者などに有効な方法であると考えられる。

もう一つの方法は、図版作成に際して、対象者と話し合いながら何を描くか決めるようにしたことである。これによって作品が対象者の希望により近づくようになった。

本研究を通じて修正された実施手順を表1に記す。

表1 実施手順

第1回 面接	ライフライン法で重要なライフイベントを特定する(省略可) 生活史についての非構造化面接 (~ を手がかりとする聞き取り)
(面接後)	聴き手は、紙芝居の脚本および図版の下絵を作成する
第2回 面接	語り手による紙芝居の脚本・図版の確認および修正。このとき語り手が新たに経験を語ることもあるので、適宜、脚本も変更する。
(面接後)	紙芝居の修正 ~ を必要に応じて繰り返して完成させる。
第3回 面接	完成した紙芝居の上演会を行う (家族・友人など親しい人のいる場で) 紙芝居を語り手に贈呈する 語り手に感想を尋ねる (~ の過程で何を感じたか)

この技法の実施に際して最も重要なことは、語り手の気持ちを尊重することである。長い人生ではときに、人に語りたくないような経験をするかもしれない。人生紙芝居では、過去の経験の中から本人が語りたいたいと思うことだけを話してもらおう。また、語られた経験のどれをストーリーに入れる・入れないかは、図版に何を描くかは、語り手が判断する。聴き手は、ストーリーと絵を提案しつつ語り手の希望を確認し、それを作品に反映させる共同制作者という位置づけになる。

(2) 語り手に対する心理教育的効果の検討

人生では、楽しい経験だけでなく、ときには辛い経験もある。後者は、本人が語ってもよいと思えるようになったときには、誰かに話すことで気持ちを整理することができる。過去の経験を他者に語ることを通して、個々の経験が自分にどのような影響を与えたか

再認識できるからである。さらに、辛い経験が今の自分に役立っていると感じられたときには、現在の生活への適応を助けてくれることもある。

人生紙芝居は、個人の生活史を聞き取って紙芝居を作成するというものであるが、その過程で語り手は自らの過去を振り返り現在とのつながりを確認することができる。また、紙芝居の脚本と図版は語り手の希望に沿って制作するため、語り手にとって望ましい(あるいは、納得できる)内容の物語になる。これを語り手とその家族・友人など親しい人たちの前で上演すると語り手に対する周囲の理解・共感が促進される。

人生紙芝居の利点は、文章と絵という紙芝居の2つの構成要素についてまとめられる。文章としての利点はストーリーの簡潔さである。語り手にとっては「人生のあらすじ」に相当するシンプルな脚本であるが、そこでは人生上の重要な出来事について因果関係が示される。また、紙芝居が絵によって構成されている利点としては、文章だけではわかりにくいことを絵が伝えてくれる、絵には描かれていない過去まで想起させる、調査協力者に親しみやすい印象を与える、という点を挙げることができる。

(3) マイノリティ理解のための教材としての有効性

人生紙芝居で制作された作品はマイノリティの経験を扱う一種のモノグラフである。モノグラフというものは、マジョリティ側にマイノリティに対する共感を生み出す機能を持つ。とりわけ紙芝居は絵を中心に構成されたメディアであり、子どもにも内容を伝えられるという利点を有する。

コスタリカの小学校におけるストリートチルドレンの紙芝居上演会を通して、子どもが貧困の原因をどうとらえるか調査した。結果から、問1「主人公はどうして路上で暮らしていたのですか?」については、「盗みをしたから」という主人公自身に原因を求める回答が約半数(回答数57)、残り半数は「お金がない」「仕事がない」「食べる物が無い」「家庭環境」など主人公を取り巻く環境に原因を求める回答であった(回答数64)。

問2「もしあなたが主人公なら、何をしますか?」という問については、「盗みをしない」(回答数51)、「働く」(回答数41)という主旨の回答が全体の約7割を占めた。犯罪歴のある主人公が仕事を獲得の難しさ、つまり盗みをせずに生きていくことの困難さは理解されなかった可能性がある。

以上から、家庭環境を背景に、生きていくために窃盗を始めたことが理解されたものの(問1)もし自分が主人公なら盗みをせずに仕事を探すと回答が多く、犯罪歴のある者が仕事に就く難しさは十分に理解されなかったのではないかと(問2)と推測された。子どもたちは実話に基づいた人生紙芝居が

ら学びを得ることができるが、より適切な内容理解を促すためにはストーリーの構成に工夫が必要といえる。

(4) その他

(3)に関連して、マイノリティを扱った児童文学作品として、障害をテーマとした絵本の資料収集およびリスト整備を行った。コスタリカに比べて日本国内の方が児童文学の出版が盛んで資料収集が容易であることから、日本国内で出版されている作品を対象とした。

上記と平行して障がい者のライフストーリーを収集し、当事者の心理社会的特徴の検討を行った。

国内での調査研究は当初計画の想定を超えているが、コスタリカにおいて確立してきた実施手順を修正しながら「人生紙芝居」技法を発展させる段階へ移行できたといえる。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

Kasuya, C. Un enfoque narrativo sobre las personas inmigrantes en Costa Rica: utilización de una técnica cualitativa de origen japonés. *Actualidades en Psicología*, 26, 1-13, 2012. (査読有)

糟谷知香江 ナラティブ・アプローチによる経験の振り返り:「人生紙芝居」を用いた試行的実践 応用障害心理学研究, 13, 37-46, 2014. (査読有)

糟谷知香江・坂田清美 障害を扱う絵本のリストに関する文献的検討 *VISIO*, 45, 23-29, 2015. (査読無)

〔学会発表〕(計3件)

糟谷知香江 コスタリカにおける「人生紙芝居」の実践可能性: ストリートチルドレンの事例から 日本教育心理学会第56回総会, 2014年11月8日, 神戸大学.

糟谷知香江・Tatiana Blanco 死別経験の再ストーリー化: 異文化環境における「人生紙芝居」を用いた支援実践から 日本心理学会第79回大会, 2015年9月23日, 名古屋大学.

Kasuya, C. Children's understanding of poverty: A qualitative research using "Kamishibai of life" conducted in Costa Rica. 31st International Congress of Psychology, Yokohama, July 26, 2016.

6 . 研究組織

(1)研究代表者

糟谷知香江 (KASUYA, Chikae)
九州ルーテル学院大学・人文学部・准教授
研究者番号: 30337274

(2)研究分担者 なし

(3)連携研究者 なし

(4)研究協力者

BLANCO, Tatiana
Central American University of Social
Sciences, Faculty of Psychology, Lecture